

# 彩の歳時記

平成三十年 六月

紫陽花 白居易

何年植向仙壇上  
早晚移栽到梵家  
雖在人間人不識  
与君名作紫陽花



何れの年にか仙壇のほとりに植えたる人階つみ移しついで梵家に到れる君のためになつて紫陽花となす

夏至を含む六月は、昼が一番長い時期。日の出は四時過ぎ、入りは七時半過ぎ。朝陽に誘われて、公園などに出掛けると日陰にひっそり擬宝珠の大輪の美しい色の花「紫陽花」を観ることも多い季節。李白・杜甫と並ぶ唐の詩人・白居易【772～846】は紫陽花に魅了され、名付けて「紫陽花詩」を残したと言われます。梅雨入りし、雨が多く、鬱陶しい時期ですが、雨上がりに一際煌めき、色を七変化させる「紫陽花」に心ませ過ぎたいものです。 葛飾北斎・画 ↓



## 六月の暦

水無月 「水な月」は「水の月」が転じたもの。梅雨を含む水の多い月。

一日 気象記念日・鮎漁の解禁・電波の日・写真の日

衣替え 更衣とも。平安時代、天皇の着替への役目を持つ女官の職名も更衣と言い、天皇に奉仕する女官では女御に次ぐ位。源氏物語の冒頭の桐壺帝の更衣（重鎮貴族から楊貴妃）になぞらえ、苛めによる心労死は光源氏の母として有名。



六日 芒種【二十四節気】 稲・麦など芒(ま)・麦など稲科の小穂の先端にある棘状の突起(とげ)の種を蒔く時期。

六日 お稽古の日・昔から、踊りや邦楽などの芸事は、六歳の六月六日から始めると上達するという言い伝えがある。同様の主旨でいけばなの日・邦楽の日・楽器の日でもある。

長明忌 『方丈記』の著者、鴨長明【1155～1216】の忌日と言われる。書き出しで移り行くもの

行く河のながれは絶えずして、しかももとの水にあらずよどみに浮かぶ泡沫(うたかた)はかつ消えかつむすびてひきしくとどまりたるためしなし…(中略)ただ池の水にぞ似たりける…

はかなさを語り、同時代の災厄についての記述が続く、後半、自らの草庵での生活が語られ、末尾では草庵の生活に愛着を抱くことさえも悟りへの妨げとして否定する無常観の文学といわれる『方丈記』は「徒然草」「枕草子」と共に日本三大随筆の一つ。

十日 時の記念日 1920年、国立天文台と生活改善委員会により制定。国民の祝日にとの意見も多い日

十七日 父の日・第三日曜日。起源はアメリカの女性が男手一つで自分を育てた父を讃えて牧師に願ひ、父の誕生月・六月に礼拝をしてもらったことがきっかけと言われる。母の日のカーネーションに対し、父は「身を守る色」というイギリスの習慣から「黄色いバラ」。



十九日

おとうき 桜桃 「さくらんぼ」は宝石のように輝き鮮烈な印象与える果実であることから

「珠玉の短編作家・太宰治【1909～1948】にふさわしい」と友人らに推された名称。今年、没後七十年を迎え、晩年を過ごし、墓地・禅林寺がある「三鷹」を中心にイベントが催される。『走れメロス』『人間失格』など。来年、井之頭公園に太宰治文学館が設立。短編『桜桃』の冒頭「子どもより親が大事、と思いたい」は有名。



二十一日 夏至【二十四節気】最も昼が長い日。冬至との時間差四時間五十分。

三十日 夏越(なごし)の祓 昔から一年の半分が過ぎる日には、半年分の穢れを祓う大祓が行われた。旧暦では六月までが夏、七月から秋で、厄払いが各地に伝わる。茅輪くぐりは茅(かや)で作った輪(わ)をくぐり、子孫代々まで災いを願う。



## 六月の歌

あじさいいろの日々 1974年 詞・曲 万里村ゆき子

編曲・演奏をポールモーリアと彼の楽団が行ったことから、二番の歌詞の冒頭「フランス映画のようなポストアミみたいな激しく燃えるあんな恋をもう一度してみたい」という洒落た雰囲気を感じさせる作品に。

歌唱の高田恭子【1946～】は、第一回カンツォーネコンクール」で優勝、1969年に「みんな夢の中」でレコード大賞新人賞。



6月の女はあじさいみたい 過ぎた春の日々をたどる心は七色 さらめく夏のための 木綿のドレス 縫う手休め 曇る窓に けむる街をみる そうよあの時もこんな雨だった レインコートのあの人は 傘の波に 消えたわ 6月の女はあじさいみたい 気を静めて 午後のお茶を 一人 飲みましょう